

2025年9月19日
公益財団法人イオン環境財団

「第1回岡山県津山市植樹」を開催

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社 取締役兼代表執行役会長 以下当財団）は、10月4日（土）に、岡山県津山市と共催で「第1回岡山県津山市植樹」を開催します。

当財団は、2024年5月に開催された「第74回全国植樹祭 岡山2024」と同年10月に開催された第74回全国植樹祭記念事業（アフター地域植樹）にて、津山市阿波地区での森林再生に携わってきました。また、2025年7月には、津山市、津山市森林組合と当財団の3者で「森林保全活動および管理活動等に関する協定」を締結し、新たに5年計画で、津山市阿波地区大ヶ山牧場跡地で植樹・育樹活動を開始します。

植樹地は、過去にスキー場として開発され、その後は牧場として利用されてきました。今回の植樹は広葉樹・針葉樹の森を再生させることを目的とし、地域ボランティアの皆さま200名で5樹種1,400本を植樹します。

今後も、ひとつしかない地球を次代へ引き継ぐため、植樹をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時 2025年10月4日（土）10:30～13:30（雨天決行・荒天中止）

場 所 岡山県津山市阿波地内

開会式：阿波ふるさとふれあい会館（津山市阿波3307）

植 樹：大ヶ山牧場跡地（津山市阿波1453の41）

植 樹 本 数 1,400本

（イロハモミジ、コナラ、少花粉スギ、少花粉ヒノキ、ヤマザクラ）

参 加 人 数 200名

主 催 津山市・公益財団法人イオン環境財団

協 力 津山市森林組合・イオンリテール株式会社・株式会社フジ

出 席 者 岡山県

美作県民局長

東 寛 様

津山市

副市長

長尾 俊彦 様

津山市森林組合

代表理事組合長

竹花 祐治 様

株式会社フジ

上席執行役員店舗運営副担当

宮宇地 剛

イオンリテール株式会社

執行役員西日本カンパニー 支社長

川本 昌彦

イオンモール株式会社

執行役員西日本支社長

岡田 貴

公益財団法人イオン環境財団

事務局次長

西原 謙策

以上

【ご参考】

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（当財団名誉理事長 イオン株式会社 名誉会長相談役）により日本で初めて地球環境をテーマにした民間企業単独の財団法人として１９９０年に設立されました。以来「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の４つの事業活動を中心に活動しています。現在は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹事業】

万里の長城での植樹をはじめとする植樹活動は国内外の地域行政と連携し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに活動を実施してきました。当財団の植樹を含むイオン全体の植樹本数は１９９１年から累計約１,２７６万本（２０２５年２月末時点）となります。

【顕彰事業】

２０１０年名古屋でのＣＯＰ１０開催を契機に、国連生物多様性の１０年を推進すべく、国連生物多様性条約事務局（ＳＣＢＤ）と相互に協力して取り組む協定を締結しました。本協定に基づき「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の２つのアワードを創設し、それぞれ隔年で個人・団体を顕彰してきました。２０２２年から２つの賞を統合し「生物多様性みどり賞」と改称するとともに、公募や審査委員会、顕彰内容をより充実したものにしています。昨年２０２４年１０月は、「第８回生物多様性みどり賞」として、カザフスタンとペルーの環境活動家２名が受賞しました。

【全国植樹祭の取り組み】

全国植樹祭は豊かな国土の基盤である森林・みどりに対する国民の理解を深めるために、公益社団法人国土緑化推進機構と都道府県の共催により行う国土緑化運動の中心的行事です。２０２４年は岡山県ジップアリーナ岡山で「第７４回全国植樹祭岡山２０２４」が開催されました。当財団は２０１８年から継続的に協力しており、昨年は苗木を中心に協賛をし、ブース出展しました。



【中国・四国地方での活動】

■「植樹」事業

- ・２００７年～２００９年 鳥取県鳥取市（６ｈａ）
１１,３４０本（１,０５６名参加）

鳥取県が取り組む「とっとり共生の森」事業に参加し、雑草の侵入によって荒廃した里山を再生する目的で、植樹とメンテナンスを実施しました。

- ・２０２２年～２０２３年 島根県松江市（１.５ｈａ）
４,０６０本（４００名参加）

「島根県ふるさと森林公園」内の松枯れやナラ枯れしている場所を、みどりが蘇り、地域の方が散策などを楽しむことができる「イオンの森」となることを目指して地域に自生する樹種を植樹しています。

■「顕彰」事業

- ・２０１７年 生物多様性日本アワード

優秀賞受賞者：山陽女子中学校・高等学校 地歴部（現岡山県 山陽学園高等学校）

プロジェクト名：瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦

活動概要：女子中高生が自分たちの海とその生態系を回復させるために海底の浄化に取り組みました。社会制度的な枠組みに収まりにくく、対応が立ち後れている「海底ごみ」の複合的問題に着目し、精力的に活動しました。海底ごみの問題を国内外に広く訴えました。